

特集

群馬県立勢多農林高等学校

インターンシップ（現場実習）報告

群馬県造園建設業協会 中毛支部

当協会では、平成17年度から群馬県立勢多農林高等学校より依頼を受け、インターンシップ受け入れ業務を実施しています。目的としては、学校教育の場では学ぶことが出来ない専門教育の実施・体験で、「実社会における労働を体験することにより、勤労観・職業観を育成するとともに、人間関係の大切さや強調性について学ぶ」となっています。

インターンシップの対象者は、その年によって変わりますが、緑地土木課1，2年生です。インターンシップ受け入れ者数は、この12年間で、延べ261名にのぼります。最近では、女子生徒の数も多く、年度によっては女子が8割を占める時もありました。これは造園に興味のある女性が増えてきていると前向きに捉え、女性活躍の場として提供できるような職場作りをして行ければ、さらなる活気ある業界になれると思います。

また、体験した生徒達から良く聞く事が「造園業って、木を植えるだけじゃないんですね

!?」という言葉です。お庭の剪定、街路樹管理、除草、石積み、外構etc、設計を含め、造園業という仕事の範囲の広さに驚く事が多いようです。このインターンシップ制度を通し、造園業という仕事を若い人たちに知って貰える大変良い機会と捉え、希望を持ってこの業界に入ってきて貰えるような体験をさせてあげられれば良いと思います。

年齢の離れた職人達とのコミュニケーションも、学校では体験出来ない事の一つだと思います。高校生から見れば、この業界の若手も、相当なおじさんに見える事でしょう。しかし、社会に出れば、様々な年齢の人とコミュニケーションを取らなければなりません。社会に出る前の良い予行練習になったことでしょうか。ただ、職人達からみると、子供や孫のようなもので、鼻の下を伸ばして優しい目で見守っていたのかもしれません。

さて、本年度のインターンシップですが、1年生と2年生について実施されました。



バラ園



刈り込み



1年生は3日間の短期インターンシップ。2年生は、6日間の長期インターンシップという形でした。特に、2年生は、昨年度もインターンシップを体験しており、2回目となります。昨年度に引き続き受け入れを行った会社からは、1年間でどれだけ成長したかという楽しみもあったとのこと。

今回は、可能であればCAD設計を体験させて欲しいと、学校側より要望がありました。普段、学校では操作しない3D-CADの体験をさせた会社もあったようです。自分の頭に描いたものが、パソコン上とはいえ、色が付き、形になっていくのは、「ものづくり」として生徒達にとって貴重な体験になったのではないのでしょうか。その他、除草体験、庭づくり体験、街路樹管理の現場見学等、現場作業も体験出来たと思います。

やった仕事が、目に見える形ですぐに成果として表れるというのが造園業の特徴でもあります。また、作った庭などは、永い間残ります。



自分のやった仕事が形に残り、お客様を満足させ、誉めて頂けるという意味では、大変やりがいのある仕事だと思います。楽しいことばかりではありませんが、ヤリガイという意味では、他のどの職業にも負けないと自負しています。

インターンシップを体験し、実際に造園業に就職した、造園関係の仕事に就いた という生徒もいると聞いています。今後も、造園業界を魅力ある職場として若い人たちにアピール出来るよう、インターンシップに協力して行ければと思います。

